

第6章 検討委員会の開催

森林・山村多面的機能発揮対策の取組状況等について、専門的な見地から検討を行い、今後の展開等についての論点の整理や提言を行うことを目的に、有識者4名で構成する「森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業 検討委員会」を設置し、3回の委員会を開催した。検討委員会の委員構成及び各回の開催概要を以下に示す。

6-1 検討委員会の開催経過

■検討委員会の設置・開催

平成27年度は有識者4名で構成する検討委員会を3回開催した。

森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業 検討委員会 委員一覧

| 氏名（敬称略） | 所属・役職 | 備考 |
|---------|---------------------------|-----|
| 山本 信次 | 岩手大学農学部 准教授 | 委員長 |
| 川尻 秀樹 | 岐阜県立森林文化アカデミー 教授 | 委員 |
| 北川 善一郎 | 長浜市 産業経済部 理事 | |
| 丹羽 健司 | 特定非営利活動法人地域再生機構 木の駅アドバイザー | |

〔事務局〕 林野庁 森林整備部 森林利用課

検討委員会の開催状況

| 回数 | 開催日時 | 会場 | 主な検討議題 |
|-----|-------------------------------|-----------------------|--|
| 第1回 | 平成27年10月21日(水) 10:00-12:00 | 東京国際フォーラム G601 会議室 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業概要 ・地域協議会及び活動組織へのアンケート調査 |
| 第2回 | 平成27年12月16日(水) 14:00-16:00 | 東京国際フォーラム G503 会議室 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会及び活動組織へのアンケート調査結果（速報）報告 ・ヒアリング先および活動事例集について |
| 第3回 | 平成28年3月11日(金) 14:00-16:00 | 東京国際フォーラム G401 会議室 | <ul style="list-style-type: none"> ・報告書について |



検討委員会の開催風景（第1回）



検討委員会の開催風景（第2回）

6-2 検討委員会での主な議論

(1) 第1回検討委員会（平成27年10月21日）での意見等

| 検討議題 | 主な意見等 |
|----------------------|---|
| 事業概要 | <p>本事業は、地域の自発性に基づいて交付金を出す点で省庁と地域との連携の仕方として非常に画期的。</p> |
| 地域協議会及び活動組織へのアンケート調査 | <p>■地域協議会へのアンケート調査について 〔質問内容、方向性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本アンケートは事業全体の見直しを行うために実施するものであり、地域協議会の業務改善の役割も果たす点に留意。 ・地域協議会の3年間の反省や要望に留意。 ・コミュニティの活性化のために活動している団体の実態もわかるような質問設定が重要。 ・事例抽出の際には汎用性に留意。 ・広報に関する設問では発信方法（ウェブサイト等の受動的な発信方法、メーリングリストやSNS等の能動的な発信方法）、発信主体（地域協議会の発信、活動組織同士の情報交換）の区別に留意。 ・回答の選択肢は、林野庁が重視している少数の項目を提示し、それぞれについて地域協議会がどの程度重視しているかを質問した方が政策にも反映させやすい。 <p>■地域協議会へのアンケート調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森づくりへの参画人数を増やすことが本事業の目的であるので、その効果を測るために活動状況に関する問に平成25年度の項目を追加してはどうか。 ・地域住民の参加状況の問い、今後の交付金に関する問いは、活動組織の側に立った分かりやすい文言に。 ・活動組織が抱える問題の解決の有無、解決方法を記述式で聴取してはどうか。 <p>■地域協議会の役割について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会は活動組織の活動を促進する役割を担うべき。責任を持って活動組織を審査し、活動の良い所をみい出し、同じ課題を持つ活動組織間の交流を促進するような姿勢が求められる。 |

(2) 第2回検討委員会（平成27年12月16日）での意見等

| 検討議題 | 主な意見等 |
|---------------------------------|--|
| <p>地域協議会及び活動組織へのアンケート調査結果報告</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・書類作成の苦労や指導に関連して、地域協議会の回答と活動組織の回答の相関関係を見ると良い。 ・高齢で電子機器に不慣れな方が、書類作成で大変苦労しているという話を聞く。その辺のフォローにも留意。 ・本交付金の活動は、チェーンソーが得意、パソコンが得意など、多様な人を巻き込むものであったはず。どのようなやり方が良いか示せると良い。 ・地域協議会、活動組織ともに、安全性を第一に考えるべき。交付金の交付、活動実施の際には安全性を第一に考える方向にアシストすることが大切。 ・機材貸与については都道府県面積との相関を整理すると見えてくるものがあるのではないか。 ・活動団体数と指導件数の相関を見た方が良い。活動団体数が増加している場所では、地域連携の状況などにも着目しても良いのではないか。 ・交付金を知ったきっかけが説明会の場合、説明会をどのように知ったのかをヒアリング等で把握できると良い。 |
| <p>ヒアリング先および活動事例集について</p> | <p>[地域協議会へのヒアリング]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良事例だけでなく、あまりうまく進んでいない事例についても、何がハードルで、そのハードルに取り除ける要素がどれほどあるのかを把握できると良い。 ・活動組織の事務処理に関連して、うまく指導ができている事例のピックアップを。 ・指導については、回数と質の問題になる。質を聞くのがヒアリングの目的となる。 <p>[活動事例集]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能強化タイプが事例は少ないので、該当事例があれば紹介を。 ・活動組織側から見て、地域協議会のサポートがどのように役立ったかのような話がにじみ出ると良い。 |

(3) 第3回検討委員会（平成28年3月11日）での意見等

| 検討議題 | 主な意見等 |
|-------------------|---|
| <p>報告書（案）について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッションやヒアリングで把握した具体的な内容や工夫なども、第2章、第3章、第7章のまとめに入れ込んでどうか。 ・バックボーンの違いが摩擦を生むことがありうる。良かれと思ったことが摩擦になりうる可能性があることを報告書に加えた方が良い。 ・求められる対応の中で安全対策については、義務化についてきっちり言った方が良いのではないかと。安全対策装備は補助金で真っ先に準備すべきものである。それを怠ると事故が起きるので、強く言うことを心がけてもよい。 ・保険に関する話についてはもう少し具体的に書いた方が良い。森林ボランティア保険では、賠償保険までカバーされていないことがある。 ・地域協議会がコーディネート力を発揮し、メンバーの出会いの場をつくることも重要。 ・どのような森を作っていくのか目標林型が決まっていれば、その為の適切な手段が考えられる。どのような森をつくるのかという目標を専門家が押し付けるのは良くないが、関係者間で決めた目標林型に対する適切な手段については専門家が指導できる。目標・計画が適切かどうかとこのための手段が適切かどうかを切り分けて議論することが重要。 ・アンケート結果やパネルディスカッションでの議論の内容をまとめた、地域協議会のグッドプラクティスがあればよい。 ・出来るだけ自立を目指していくことも重要であるが、すべての団体で実現できるわけではない。村で人とのかわりを通じて発揮される公共性の重要性についてもふれていくとよい。 ・林業・森林保全など様々な場で、女性の方が参加している仕組みづくりができればよい。 |